

第25回(1993年度)サントリー音楽賞  
受賞者は五嶋みどり氏に決定

毎年わが国の洋楽の発展にもっとも顕著な業績をあげた日本人に贈る「サントリー音楽賞」の第25回(1993年度)受賞者は、五嶋みどり氏に決定した。

1. 1994年1月15日(成人の日)午前10時より東京丸の内の東京會館において、選考委員12名の出席により第一次選考を行ない、「候補者」を選定した。
2. 引き続き3月7日(月)午前10時より、東京紀尾井町のザ・フォーラムにおいて選考委員12名の出席により最終選考会を開催、慎重な審議の結果、第25回(1993年度)サントリー音楽賞受賞者に五嶋みどり氏が選定された。そして、同日午後開催の理事会において正式に決定された。
3. 五嶋みどり氏の選考理由は別紙のとおり。
4. 選考委員は下記の12氏。  
磯山 雅・岩井宏之・小石忠男・菅野浩和・武田明倫・中河原理・丹羽正明  
藤田由之・船山 隆・松本勝男・門馬直美・吉田雅夫

(50音順)

五嶋みどり氏(ヴァイオリン)

<贈賞理由>

すでに国際的にも最もすぐれた演奏家のひとりとして高い評価を得ているヴァイオリニスト、五嶋みどりは、1993年5月下旬から6月前半にかけて、愛知芸術劇場(5月25日)、大阪のザ・シンフォニーホール(5月31日)、サントリーホール(6月9日)をはじめとする全国各地のホールにおいて、11回に及ぶコンサートをピアノのロバート・マクドナルドとともに開き、そこで数多くの聴衆に非凡な演奏を聴かせ、深い感銘を与えた。その音の美しさや技巧の完成度の高さについては、あらためて言うまでもないが、早くから内面的にも充実した音楽を聴かせてきた彼女が、今回、さらに一段と成熟をみせ、

すばらしい集中力とともに、シューベルト、ベートーヴェン、エルガー、あるいはレスピーギのソナタ作品、そしてドヴォルザークやサラサーテの小品といったレパートリーに、説得力のある魅力に溢れた演奏を聴かせていたことは見のがせない。様式的にも確かな把握を見せたこれらの演奏を通じて、彼女が、聴く者に喜びを与えると同時に、人間的にもすぐれた音楽家のひとりであることを印象づけていたことはきわめて重要であろう。

なお、彼女は1992年5月に、自らニューヨークに「みどり教育財団」を設立し、芸術・文化に触れる機会に恵まれない人びと、とくに小・中学生を対象とする情操教育の場を開き、また、日米間を中心に世界的な文化交流のひろがりを目指した活動をも始めている。1993年には、日本でのその活動を、すでにあげた一連のコンサートと一部併行して、6月から7月にかけてピアノの中野慶理とともに実現した。それらは、“レクチャー・コンサート”の名のもとに、全国各地の学校、障害者施設、こども病院、医療センターなどにおいて数多く重ねられ、多くの人々に音楽の喜びを伝え、生涯記憶に残るような稀少の機会を提供した。もちろん、それは、ヴォランティア的な文化活動のひとつとしても考えられるものであるが、それが、彼女のように稀にみる才能に恵まれ、国際的にも高い評価を得ているきわめて若い音楽家によって行なわれているという点に、一層の価値があるといってもよいであろう。こうした音楽、社会両面における彼女の卓越した業績は、日本の楽壇にとっても誇りとして得るものであるといっても過言ではあるまい。

#### <略歴>

1971年10月25日、大阪生まれ。8歳の時の彼女の演奏テープを聞いたジュリアード音楽院のヴァイオリン教授ドロシー・ディレイ女史に招かれて82年、10歳で渡米、同音楽院の特別奨学生となる。83年、ビーズン・メータに認められ、ニューヨーク・フィルと共演してデビュー、注目を集める。以後アイザック・スターン、ピンカス・ズッカーマンらと共演。86年タングルウッド音楽祭でバーンスタイン指揮、ボストン交響楽団との演奏中、2度も弦が切れるというハプニングにあいながら、楽団員のヴァイオリンを借りて最後まで演奏し、大きな話題となった。同年、レナード・ストラトキン指揮セントルイス交響楽団と来日し東京・大阪で共演。87年、日本デビューリサイタルを東京・大阪で行なう。90年、カーネギーホール初リサイタルを開き、絶賛を浴びる。92年、彼女を理事長とする「みどり教育財団」を設立し世界中の子供たちのために演奏している。

以 上